

情報工学研究科 情報工学専攻 修士課程	
DP	<p>情報工学研究科情報工学専攻修士課程は、本学の立学の精神と本研究科の人材養成目的「幅広い視野と国際性豊かな人間性を備え、社会に通用する情報工学の高度な専門知識・技術とその応用力を持ち、自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく技術者・研究者の養成を目的とする。」に基づき、本課程において、2年以上在学し、十分に高度な情報工学の専門知識と研究能力を身につけた学生で、修了に必要な30単位以上を修得し、所定の修士論文の審査に合格した者に対して、修士（工学）の学位を授与します。</p> <p>①情報工学技術に対する社会の多様な要請に対応できる、幅広い視野と質の高い技術力、及び高い倫理観を身につけ、学術的見地に立って物事の公正な判断をすることができる。</p> <p>②高度情報社会のさまざまな分野で、情報技術者として専門能力を発揮し、課題の発掘と諸問題の解決のためにその能力を活用できる。</p> <p>③生涯にわたり主体的、自立的に情報工学の課題を探究する能力、他者と協力して問題を解決していく能力、及び国際的に活躍し得る能力を身につけている。</p>
CP	<p>情報工学研究科情報工学専攻修士課程は、本専攻の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、コースワークとリサーチワークを適切に配置し、次のような方針で教育課程を編成し、実施します。</p> <p>①コースワークでは、情報工学の高度な専門知識及び幅広い関連分野の知識を修得させるため、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディア、ネットワークシステムの4専修分野に特論、関連科目としてアドバンスト・データサイエンス・AI、アドバンスト・インターンシップ、英語科目等を配置する。これらの授業を通じて身につけた高度な専門知識、及び高い倫理観に基づき、物事を深く捉え、公正に判断できるようにする。</p> <p>②リサーチワークでは、各専修分野に研究指導科目として特別演習・実験を配置し、研究倫理教育も含め、研究発表、学術論文作成、修士論文作成等の指導を行う。この科目を通じて、高度情報社会のさまざまな分野で専門能力を発揮するための素養、知識、創造性を養成し、問題解決のために活かすことができるようにする。</p> <p>③コースワーク、リサーチワークともに少人数・双方向の授業体制により、実習、プレゼンテーション、研究発表等を積極的に取り入れ、能動的学修を促進する。この体制を通じ、生涯にわたる学び、研究を継続する力、及び共同研究などの他者と交流するためのコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>④シラバスにおいて指定した成績評価方法、及び評価基準に基づき、厳格な成績評価と単位認定を行う。学位論文については、情報工学研究科修士課程の学位論文審査基準に基づき、客観性を担保し、厳格に審査する。また、学生の進路や関心等に基づき、指導教員により個別指導を行い、個々の達成度と進路・関心に応じた学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>情報工学研究科情報工学専攻修士課程は、本専攻の教育目標を理解し、学部の教育課程における学修を通じて、次のような資質・能力を身につけている人を受入れます。</p> <p>①大学院での学修の基礎となる大学卒業レベルの基礎学力、及び情報工学の基礎知識を有する。</p> <p>②情報工学の専門分野に関心があり、大学院での学修成果を社会で活かすという目的意識がある。</p> <p>③旺盛な探究心と研究心、強い意志を持って、何事にも粘り強く取り組むことができ、大学院在学中だけでなく、修了後も学び続ける意欲がある。</p>